

1 令和5年度の取組

1 健康づくりと疾病予防

■ 壮年期男性（40～64歳）全死因年齢調整死亡率
 （5年移動平均）（出典：健康づくり支援システム）（人）

	～H30	～R1	～R2	～R3	～R4
須崎管内	580.1	561.1	553.4	543.4	556.3
高知県	522.9	516.0	501.0	486.0	482.3
全国	460.2	448.4	439.2	432.3	430.3

・ 壮年期の男性の全死因死亡率は、全国及び県よりも高く、死亡の原因の約6割は生活習慣病が占めている

■ 管内事業所の健康づくりの取組状況
 （出典：令和2年高幡地域事業所の健康経営実態調査）

- ・ 職員の健診を毎年実施：95.2%
 - ・ 必要な人に保健指導を実施：34.3%
 - ・ 「健康経営」を知らない：44.8%
 - ・ 高知家健康パスポートを知っているが取り組めていない：51.4%
- 定期健診結果報告における有所見率（出典：須崎労働基準監督署）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
須崎署管内	60.0%	60.2%	62.7%	65.6%	65.4%	63.0%	65.1%
高知県	61.5%	62.2%	61.2%	63.1%	63.7%	62.6%	63.1%
全国	54.1%	55.5%	56.6%	58.5%	58.7%	58.3%	58.8%

・ 血糖、血中脂質、血圧の有所見率が増加傾向にある

2 疾病の早期発見・早期治療

■ 市町村国保特定健診受診率（出典：法定報告）

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	県平均
R1	40.6%	45.9%	74.8%	63.9%	38.6%	37.7%
R2	37.3%	40.1%	70.6%	55.3%	34.4%	35.2%
R3	37.7%	41.3%	75.1%	64.2%	37.0%	35.6%
R4	40.5%	44.7%	72.7%	62.4%	33.8%	36.6%

■ 市町村国保特定保健指導実施率（出典：法定報告）

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	県平均
R1	39.2%	16.9%	35.6%	41.6%	20.4%	28.4%
R2	43.6%	18.3%	14.3%	57.1%	36.6%	30.1%
R3	41.7%	52.6%	16.0%	35.8%	40.9%	33.0%
R4	36.5%	58.2%	25.9%	53.3%	49.6%	34.6%

・ 目標である、特定健診受診率60%、特定保健指導実施率60%には届いていない

■ 管内市町の糖尿病性腎症重症化予防プログラム活用状況

	R1	R2	R3	R4
プログラムⅠ（未治療ハイリスク者）介入割合	82.4%	77.8%	87.5%	30.8%
プログラムⅠ（治療中断者）介入割合	66.7%	71.4%	55.6%	17.6%
プログラムⅡ介入割合	1.6%	5.9%	14.3%	4.1%

◎ 取組

1 健康づくりと疾病予防

- 生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化
- （1）健康づくり推進部会と連携した啓発活動の実施
- ・ 健康づくり推進部会の開催（7月と1月）
- ・ よさこいケーブルネット放映（2回）
- （2）事業所での主体的な健康づくり（健康経営）の取組促進
- ・ 健康管理担当者サポート事業の実施（24社訪問）
- ・ 職場の健康づくり応援研修会（11月33人）
- ・ 全国安全週間等説明会場にて健康経営の啓発（4会場135人）
- ・ 出前健康教室の実施（3社65人）

2 疾病の早期発見・早期治療

- 血管病重症化予防対策の推進
- （1）特定健診受診率・特定保健指導実施率の向上対策
- ・ 中土佐町の医療機関訪問に同行し、受診勧奨を依頼（3機関）
- （2）糖尿病性腎症重症化予防対策の推進
- ・ 糖尿病アドバイザー派遣事業の実施（3市町）
- ・ 四万十町とくぼかわ病院における透析予防強化事業実施を支援
- ・ 糖尿病性腎症透析予防強化事業の医療機関への説明（2機関）
- ・ 糖尿病性腎症対策研修会の開催（12月）
- ・ 糖尿病対策検討会の開催（3月）

2 令和5年度の取組成果

1 健康づくりと疾病予防

- 生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化
- （1）健康づくり推進部会との連携により、ケーブルテレビを活用して啓発するなど、具体的な取組ができた。
- （2）健康管理担当者サポート事業や応援研修会等々の機会を捉え、健診の必要性、健診後の保健指導や受診勧奨の重要性を伝えることができた。また、他事業所の好事例の取組を共有し、啓発できた。

2 疾病の早期発見・早期治療

- 血管病重症化予防対策の推進
- （1）医療機関からの特定健診受診勧奨の声かけやチラシ配布・掲示の協力が得られた。
- （2）糖尿病性腎症透析予防強化事業の開始
- （3）糖尿病対策検討会の設置により、関係機関が連携し、糖尿病の発症及び重症化予防に向けた取組を推進する体制づくりができた。

3 令和6年度の取組（8月末までの実績）

1 健康づくりと疾病予防

- 生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化
- （1）健康づくり推進部会と連携した啓発活動の継続：第1回健康づくり推進部会（7/24 11人）
- ①部会で啓発資料を作成し、各組織での取り組みを推進：健康経営取組事例と適正飲酒の啓発資料を作成中
- ②地域のケーブルテレビを活用した啓発放映：9月の健康増進月間や高知家健康フェスティバルに併せて放映予定
- （2）事業所での主体的な健康づくり（健康経営）の取組促進
- ①健康管理担当者サポート事業の継続：事業所訪問（11社）、出前健康教室（1社）、商工会等との連携による総会等での普及啓発（6回）、職場の健康づくり応援研修会（11/5予定）
- ②高知家健康パスポートアプリを活用した事業所支援：アカウント取得事業所（4社）

2 疾病の早期発見・早期治療

- 血管病重症化予防対策の推進
- （1）特定健診受診率向上対策として、個別健診やみなし健診の受診者増加へ向けた支援：具体的な取組方法を共有
- （2）糖尿病性腎症重症化予防対策について
- ①糖尿病アドバイザー派遣事業は広域開催とすることで、効果的な市町職員等のスキルアップをはかる
- 第1回（8/9 12人）、第2回（9/26予定）、第3回（10/29予定）
- ②糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実施拡大を促進するため、医療機関訪問や市町（保険者）への支援
- 市町ヒアリング（5/29、7/16、7/29）や情報共有を実施。プログラムの実施に向けての医療機関訪問計画中。
- ③糖尿病対策検討会を通じた関係機関との連携強化：第1回検討会（7/9 9人）／発症予防と重症化予防に向け、課題を整理し、R6年度の取組について共有）、第2回検討会（1月予定）

1 令和5年度の実績

高知家@ライン

アンケート調査分析	48件
活用が有効と回答	31件
加入事業所（うち既加入）	26件（5件）

モデル地区を須崎市に選定

在宅医療・介護連携合同研修会
テーマ「人生会議」 参加者

福祉関係	98人
医療・薬局	37人
警察・消防	7人
行政 他	32人

認知症サポーター数

	R5.3	R6.3
須崎市	2,069人	2,175人
中土佐町	1,311人	1,342人
梶原町	429人	444人
津野町	547人	572人
四万十町	3,326人	3,337人

(1) 在宅療養体制の充実にに向けた取組

- ・高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会在宅医療・介護連携合同研修会開催支援 多職種連携推進、「人生会議」の啓発のための研修会；参加者：174人
- ・地域包括ケアシステムの効果的な運営のためのアドバイザー派遣
 - ① 地域包括支援センター機能強化推進（須崎市2回、四万十町1回、梶原町1回）
 - ② 生活支援体制整備を中心とした課題解決推進（須崎市1回、津野町4回）

(2) 高知家@ラインの加入施設の拡大

- ・多職種連携についてのアンケート実施し課題調査（薬局・医療機関・介護事業所48件）
- ・モデル地区を須崎市に選定、活用することで効果的な連携が進むと回答した事業所に加入を進めるため、須崎市地域包括支援センター及び事務局でヒアリングと事業説明（31件）
- ・加入事業所、須崎市地域包括支援センター及び事務局とワーキングの開催（3回）

(3) 総合的な認知症施策の推進

- ・「共生社会」を啓発するため、梶原町・津野町地域において認知症疾患医療センター（一陽病院）と連携した講演会・交流会の開催 テーマ「気づき・つながり・共に暮らす」、参加者81人（3/3）
- ・高知家希望大使を招聘した交流会・研修会の開催（12/25）
- ・「認知症講演会」を通じサポーター活動や認知症の理解を周知啓発を推進するため、地域での交流会の開催 2回（2/14、3/27）

(4) あったかふれあいセンターの機能強化

- ・あったかふれあいセンターの定例会や運営協議会への出席（定例会10回、運営協議会等10回）
- ・他のあったかふれあいセンターの活動を体験、学ぶため黒潮町へ「あったか留学」の実施（10月3人、11月9人）
- ・あったかふれあいセンター、市町を対象に担当者会の開催 参加者26人（3/7）

(5) 住民主体の地域づくりの推進

- ・地域福祉（活動）計画の改定及び進捗管理のための策定委員会へ出席

2 令和5年度の実績

(1) 在宅療養体制の充実にに向けた取組

- ・「人生会議」に関与する多職種連携を目指し、福祉・医療・薬局・行政関係者に加え、消防・警察関係者が意見交換することで協力体制の構築につながった。

(2) 高知家@ラインの加入施設の拡大

- ・新規加入件数21件（医療機関4件、薬局2件、介護保健事業所15件、行政1件）既加入施設5件、合計26件が加入し13事例の活用検証ができた。

(3) 総合的な認知症施策の推進

- ・津野町梶原町地域で啓発ができ、当事者・家族、支援者等の交流ができた。

(4) あったかふれあいセンターの機能強化

- ・「あったか留学」による学びを自所属の活動に反映でき、担当者会で運営協議会の運営について現状や課題が共有できた。

(5) 住民主体の地域づくりの推進

- ・地域福祉（活動）計画の改定及び計画に沿った活動の見直しや推進ができた。

3 令和6年度の実績（8月末までの実績）

〈地域で支え合う医療・福祉・介護サービス提供体制とネットワークの強化〉

1 在宅療養体制の充実にむけた取組

- (1) 高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会と協働の研修会を開催：第1回7/3、第2回8/28
 - ・多職種が連携して課題を検討するため、継続して「人生会議」をテーマに研修会及び検討会を開催 11/18開催（予定）
- (2) 高知家@ラインの活用連携体制の強化
 - ・未加入事業所を対象に、啓発やヒアリングを実施し加入を勧めると共に連携事例を共有して活用方法を周知：津野町包括支援センターと事例の共有 8/19、居宅会にて説明9/13（予定）

2 総合的な認知症施策の推進

- ・中土佐町、四万十町地域で「共生社会」を目指した認知症講演会の開催：両町を訪問、内容等を検討中
- ・認知症希望大使と地域との交流会・研修会の開催：高幡ブロック地域包括支援センターで企画検討中

3 あったかふれあいセンターの機能強化

- ・「あったか留学」による他の拠点から学びを継続支援
- ・あったかふれあいセンターと市町が地域課題を共有に向けた担当者会の開催

1 令和5年度の取組

【管内の状況】

※1 出生：1～12月

【幼児健診の状況(R4年度)】

◎課題への取組

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	管内	県
人口(人) (R4.4.1推計)	19,725	5,728	3,169	5,161	15,027	48,810	677,888
出生数(人) (R4)※1	84	17	10	24	70	205	3,721
子育て世代包括 支援センター (母子保健)	H29 設置	R4 設置	H29 設置	R2 設置	R2 設置	5市町	34市町村
子ども家庭総合 支援拠点 (児童福祉)	R4 設置	R4 設置	-	R4 設置	R4 設置	4市町	20市町村

	須崎市		中土佐町		梶原町		津野町		四万十町	
	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児
回数	6回	6回	4回	3回	3回	6回	6回	6回	6回	6回
受診者数(人)	104	84	16	23	17	23	29	31	84	73
要経過観察 (人)	8	25	3	0	6	5	4	7	7	1
要精密 (人)	4	11	1	3	0	4	0	3	7	6
要治療 (人)	3	7	1	1	0	0	0	0	0	1

1 妊娠期から子育て期までの支援体制強化

- 市町における育児リスクの早期発見と予防的支援の仕組みづくり
 - 市町ヒアリング（5月）や管内母子保健担当者連絡会（6/30 11人、2/9 9人）で各市町の「重点取組」や「産後ケア」について情報共有
- こども家庭センターへの移行を見据えた各市町子育て世代包括支援センター（母子保健）と児童福祉部門との連携強化
 - 管内母子保健担当者連絡会（再掲）で「こども家庭センター」について情報共有
 - 須崎市母子保健部門と児童福祉部門へのヒアリング（3/7 9人）
- 母子保健に関する事例検討会の開催
 - 新任期保健師の事例提供による事例検討会の開催（須崎市・中土佐町・四万十町：6/26 11人、津野町・梶原町：9/20 8人）

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 保健師等専門職の要支援児の見立てやフォローに関する研修会の開催
 - 管内医療機関の言語聴覚士を講師に招き、幼児健診の見立てについての研修会を開催（6/30 15人）
 - 乳幼児健診に従事する小児科医師の確保について、管内3市町の情報交換会を開催（須崎市・中土佐町・津野町：9/4 11人）
- 市町と障害福祉サービス事業所との情報共有の支援
 - 管内市町・事業所・医療機関が参加した発達が気になる子どもの支援体制整備検討会を開催（11/27 25人）

【こども家庭センター
設置予定】

【管内の障害児福祉サービス】

【当所における発達相談会】

・全て須崎市内

R6年度	四万十町
R6年度中	津野町
R7年度中	中土佐町
未定	須崎市 梶原町

運営主体	事業所名	児童 発達支援	放課後等 デイサービス	保育所等 訪問
(医療法人)五月会	なちゆら	○ (R4~)	○ (R3~)	○
(株)三葉	COMPASS 発達支援センター 須崎	○	○	
(社団法人) チャイルドライフ	通所支援 ペルテール須崎園		○	

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
	回数	10回	10回	10回	10回	10回
利用 人数(人)	35	32	26	32	25	32

2 令和5年度の取組成果

3 令和6年度の取組（8月末までの実績）

1 妊娠期から子育て期までの支援体制強化

- 管内市町が「重点取組」や「産後ケア」について共有し、自市町での取組に活用
- 管内市町がこども家庭センターの機能・要件について理解し、取組を検討
- 新任期保健師の事例の検討を通じたアセスメント力強化

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 管内市町保健師が幼児健診の見立てと継続支援についてスキルアップ
- 発達の気になる子どもの支援に関する管内関係機関の相互理解の促進と関係づくり

1 妊娠期から子育て期の支援体制強化

- 妊娠期からのポピュレーションアプローチによる虐待リスク予防
 - 市町ヒアリング（5月）、幼児健診勉強会（5/22 16人）
母子保健担当者勉強会 第1回：産後ケア事業の検討（7/16 8人）
第2回：新生児期・乳幼児期の母子への関わり（9/30予定）
管内母子保健担当者連絡会 第1回（7/16 8人） 第2回（1～2月予定）
- 各市町内での関係者が協働したこども家庭センターへの円滑な移行
 - 設置に向けた市町の協議への参画 須崎市（5/10）
管内母子保健担当者連絡会（再掲）での情報共有 第1回（7/16 8人）、研修会の開催（1月予定）

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 障害児のサービス体制整備に向けた協議
 - 発達の気になる子どもの支援体制検討会：支援体制の検証と課題解決に向けた協議（11/12予定）
- 幼児健診後から就学までの切れ目のない支援体制づくり
 - 支援者の人材育成と教育相談員派遣事業の活用を推進：保育所での療育相談会（6/18）

1 令和5年度の取組

【管内市町の状況（R6.3月末現在）】

項目		須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
計画/ マニュアル 策定状況	災害医療救護計画改定	R4.3	R元.8	R2.3	H28.11	H26.12
	南海トラフ地震時 保健活動マニュアル改訂	R4.3	R5.2	H31.3	H31.3	H31.3
	遺体対応マニュアル策定	H30.1	H28.3	H30.3	H29.3	H29.3
災害時 要配慮者 対策	避難行動要支援者数(A)	601	150	40	73	1,787
	同意取得者数(B) (同意取得率B/A)	204 (33.9%)	109 (72.7%)	39 (97.5%)	50 (68.5%)	1,127 (63.1%)
	個別計画策定数(C) (同意者の策定率C/B)	204 (100%)	104 (95.4%)	38 (97.4%)	50 (100%)	1,098 (97.4%)
	人工透析患者数	157 (入院22、通院135)				
福祉 避難所	指定(協定)施設数 (施設マニュアル策定数)	9 (4)	7 (0)	4 (0)	4 (0)	11 (11)

【医療機関等の津波浸水予測（L2想定）】

項目	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
救護病院	土佐市 民病院	くぼかわ 病院	梶原病院	梶原病院	くぼかわ 病院
(浸水予測)	(高陵病院)	(なかとさ 病院)	/	(高陵病院)	大西病院
透析医 療機関	(島津 クリニック)	(なかとさ 病院)	/	/	くぼかわ 病院
(浸水予測)	(須崎医療 クリニック)	/	/	/	/
薬局	14	2	2	2	7
(うち浸 水予測)	(14)	(2)	(0)	(0)	(0)

2 保健医療調整高幡支部初動体制の見直し

- ・支部初動体制確立のアクションカードの見直し

3 保健（公衆衛生）活動の体制強化

- ・「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」改定に向けた協議（須崎市、津野町、四万十町）
- ・GIT研修会への参画（須崎市、中土佐町、梶原町）

4 地域住民と共に取り組む災害時要配慮者対策の推進

- (1)人工透析患者災害時支援
- ・人工透析患者災害時支援体制検討会（10/10:35人、2/15:28人）
 - ・災害透析情報伝達訓練(12/2:27人)
 - ・透析医療機関臨床工学技士等連絡会(1/20:23人)
 - ・透析医療機関と市町との意見交換会（10/31:27人）
 - ・市町担当（保健、福祉、防災担当）ヒアリング（各市町：6/28～7/6）
- (2)災害時要配慮者対策支援
- ・総合防災対策推進須崎地域本部と協働の推進チーム会（須崎市、中土佐町、四万十町）
 - ・管内担当者会で避難所運営ゲーム（HUG）

1 地域ごとの医療救護体制づくりの支援

- ・地域ごとの医療救護行動計画策定作業の進捗管理
- ・高幡地域の災害時薬剤師活動を考える勉強会
- ・医療機関、DMAT等大規模地震時医療活動訓練
- ・須崎災害対策支部、保健医療調整高幡支部、市町災害対策本部、救護病院との合同訓練
- ・幡多地域災害医療救護訓練
- ・高幡地域遺体対応検討会担当者会
- ・災害医療対策高幡地域会議



2 令和5年度の取組成果

1 地域ごとの医療救護体制づくりの支援

- ・管外居住勤務医搬送及び管轄を超えた市町と救護病院との患者搬送の連絡手順を検証し課題を整理
- ・災害医療対策高幡地域会議を再開し、関係者間の連携強化及び取組や地域課題を共有

2 保健医療調整高幡支部初動体制の見直し

- ・早急な支部設置に向けて、職員の参集状況等を検証し、災害状況別等のアクションカードを改正

3 保健（公衆衛生）活動の体制強化

- ・「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」の改定作業や実際の災害をイメージしたGIT研修を通じて市町の保健福祉担当者及び防災担当者間で組織体制や通信手段の現状や課題を確認

4 地域住民と共に取り組む災害時要配慮者対策の推進

- ・中央西・高幡ブロックにおいて、透析医療機関と支部、管内町間での情報伝達訓練を実施し、課題が明確化
- ・個別避難計画の策定の進捗状況を関係課で共有
- ・避難所運営ゲーム（HUG）を通じて、市町と福祉避難所である施設が災害対応時のイメージを共有

3 令和6年度の取組（8月末までの実績）

1 保健医療調整高幡支部体制の強化

- (1) 実践的な医療救護訓練の日程調整（合同訓練：10/1、医師対象災害医療研修：10/5）
- (2) 災害医療対策高幡地域会議の開催（2月予定）
 - ・医療従事者搬送計画の協議（救護病院・災害拠点病院へのヒアリング：8月）
- (3) 保健医療調整高幡支部初動体制の見直し（所内ワーキング：3回）
- (4) 保健活動情報伝達訓練の実施（所内訓練：7回）



2 市町ごとの災害時活動体制づくり

- (1) 地域ごとの医療救護行動計画（L2想定）未策定2町の策定スケジュールの共有（4月）
- (2) 「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」の見直し支援（須崎市、津野町、四万十町）
- (3) 南海トラフ地震時公衆衛生活動GIT研修会の開催支援（6月須崎市実施）
- (4) 医薬品・医療資機材の確保策の勉強会開催に向けて検討（7月～）
- (5) 警察や葬祭業者等と連携した市町主体の遺体安置所運営訓練の開催支援（調整中）

3 災害時要配慮者対策の推進

- (1) 人工透析患者の災害時支援体制の推進
 - ・高幡・中央西ブロック災害透析情報伝達訓練の実施に向けて検討（事務局会4回）
 - ・要配慮者対策推進チームと合同で市町ヒアリングを実施（全市町 6/27～7/16）
- (2) 福祉避難所運営体制の実効性に向けた支援
 - ・保健福祉担当部署と防災担当部署及び施設との連携に向けた担当者会の開催(9/25予定)